B 鑑賞　ア（ア）（イ）（ウ）、イ（ア）（イ）（ウ）

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 音楽ⅠレポートNo. | | 日本の伝統音楽の魅力を味わおう | | 教科書  『MOUSA１』 | | P.6 能舞台　P.68 舞台芸術  P.84 日本の伝統音楽　P.94 箏  P.96 日本音楽の流れ | | |
| 提出日 | 月　　　日 | 氏名 |  | 得点 |  | | 評価 |  |

1. **日本の伝統音楽について、次の問いに答えよう。［知］**
2. **「雅楽 舞楽《陵王》」（教P.84）を読み、次の文章を完成させよう。**
3. **「平安時代」（教P.96）を読み、正しいものを次から２つ選ぼう。**

ア　舞楽では、左舞の舞人は緑、右舞の舞人は赤を基調とした装束を着る。

イ　管絃は、舞を伴わずに演奏される。

ウ　今様は流行歌で、宮廷歌謡と同様に庶民階層と貴族が共有した。

エ　平安時代中期に猿楽と呼ばれた散楽は、能の原型となった。

1. **「能舞台」（教P.6）、「能楽」（教P.69）を読み、次の文章を完成させよう。**
2. **「能《道成寺》」（教P.84）の説明として正しいものを次から２つ選ぼう。**

ア　「雑能」と呼ばれる種類の演目である。

イ　「乱拍子」は見せ場であり、シテと太鼓の一騎打ちと称されることもある。

ウ　「鐘入」の前の「急ノ舞」は、緩やかなテンポで舞われる。

エ　シテである「白拍子」は、後半では「鬼女」となる。

（各2点＝20点）

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| **ア** |  | **カ** |  |
| **イ** |  | **キ** |  |
| **ウ** |  | **ク** |  |
| **エ** |  | **ケ** |  |
| **オ** |  | **コ** |  |

（各2点＝４点）

|  |  |
| --- | --- |
|  |  |

（各2点＝20点）

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| **ア** |  | **カ** |  |
| **イ** |  | **キ** |  |
| **ウ** |  | **ク** |  |
| **エ** |  | **ケ** |  |
| **オ** |  | **コ** |  |

（各2点＝４点）

|  |  |
| --- | --- |
|  |  |

「舞楽」はアジア各地から伝来した舞や音楽である。（ ア ）時代に国風化が進められ、様式が整えられた。「（ イ ）」と「（ ウ ）」に大別され、（ イ ）では中国などから伝来した「（ エ ）」を、（ ウ ）では（ オ ）半島などから伝来した「高麗楽」を演奏する。

左舞の《陵王》は、動きのある「（ カ ）」の代表的な演目で、中国の南北朝時代に活躍した蘭陵王長恭という実在の武将にまつわる（ キ ）を題材にしてつくられ、この武将が馬上で指揮を執る姿が、舞と音楽によって表現される。

舞楽の楽器奏者は、（ ク ）と呼ばれ、吹物と（ ケ ）を演奏する。いくつかの曲から編成されるが、演目の中心となる曲を〈（ コ ）〉と呼ぶ。

能は、（ ア ）時代初期に、観阿弥、（ イ ）親子によって基本的な形に整えられた。時々の権力者の庇護を受けて伝承され、江戸時代には（ ウ ）の式楽としても用いられた。能では、主役の「シテ」、その（ エ ）役の「ワキ」などが謡や演技、（ オ ）で表現する。シテはほとんどの演目で（ カ ）をかけて演じる。地謡と、笛（能管）・（ キ ）・大鼓・太鼓による囃子を伴う。能はもともと野外で演じられており、寺や神社に（ ク ）を作ってそこで上演していた。

狂言は、風刺のきいた（ ケ ）を中心とする劇である。能と能の間に演じられる本狂言と、能の中で狂言方が演じる「間狂言」がある。能と狂言を総称して、「（ コ ）」と呼ぶ。

1. **「箏」（教P.94）を読み、次の文章を完成させよう。**
2. **「箏曲《みだれ（乱輪舌）》」（教P.85）を読み、正しいものを次から２つ選ぼう。**

ア　通常の段物は、初段を除く各段が104拍でできており、段が進むにつれて遅くなる。

イ　《みだれ》は、各段の拍数が一定ではなく、テンポも不規則に変化する。

ウ　生田流では12段に分かれていることから《十段の調べ》とも呼ばれる。

エ　本来は独奏曲だが、三味線や尺八を加えた「三曲」としても演奏される。

1. **「尺八曲 琴古流古典本曲《鹿の遠音》」、「尺八について」（教P.85）を読み、次の文章を完成させよう。**
2. **「日本の伝統音楽」（教P.84）に掲載されている４つのうち１つを選び、「鑑賞のポイント」を参考にしながら鑑賞しよう。**
3. **音楽を聴いて受けた印象や気付いたことなどを書こう。［思・判・表／主］**
4. **日本の伝統音楽について、その魅力や考えたことを書こう。［思・判・表／主］**

（各2点＝12点）

|  |  |
| --- | --- |
| **ア** |  |
| **イ** |  |
| **ウ**  **え** |  |
| **エ**  **お** |  |
| **オ** |  |
| **カ** |  |

（各2点＝４点）

|  |  |
| --- | --- |
|  |  |

（各2点＝16点）

|  |  |
| --- | --- |
| **ア** |  |
| **イ** |  |
| **ウ**  **え** |  |
| **エ**  **お** |  |
| **オ** |  |
| **カ** |  |
| **キ** |  |
| **ク** |  |
| **ケ** |  |

箏は、奈良時代に唐（中国）から伝来し、（ ア ）の中で使用された。室町時代から安土・桃山時代には、箏の伴奏による歌曲を中心とした（ イ ）が寺院雅楽から成立し、これをもとに（ ウ ）が近世箏曲の基礎を築いた。箏は、通常桐の木で作った胴に（ エ ）本の糸が張られており、（ オ ）と呼ばれる駒を動かして音の高さを調整する。楽器の各部の名称は、箏全体を（ カ ）の姿になぞらえて付けられている。

尺八は、奈良時代頃に（ ア ）や朝鮮半島から伝来したといわれる。（ イ ）製で、標準の長さが（ ウ ）尺（ エ ）寸であることがその名の由来とされている。尺八は、息を吹き込む（ オ ）を変えることなどによって音高や音色を変化させることができ、代表的な奏法に、メリ、カリ、ユリ、（ カ ）がある。

尺八のみで演奏するためにつくられた曲のことを「（ キ ）」といい、もともとは禅宗の一派である普化宗の僧（虚無僧）が修行のために吹くという宗教的な性質をもっていた。

《鹿の遠音》は、（ ク ）本の尺八で演奏され、雌雄の鹿の鳴き交わす声が紅葉の奥山にこだまする様子を表現しているといわれる。原曲《呼返鹿遠音》と呼ばれ、初世（ ケ ）が収集したとされる。

|  |
| --- |
| （10点） |
|  |

|  |
| --- |
| （10点） |
|  |